特集 源氏物語

～雅なる王朝文学～

今年のNHK大河ドラマ「光る君へ」では、『源氏物語』の作者・紫式部の生涯が描かれています。この物語が書かれた平安時代には、女性を中心に仮名文字を使った王朝文学が花開きました。

今回は、源氏物語をはじめとする王朝文学の雅な世界へご案内いたします。

王朝文学について

貴族たちが正式な文章を漢字・漢文で書いていた平安時代において、漢字から作られた仮名は「女文字」と呼ばれていました。仮名の誕生により漢字では表せなかった細やかな感情を表現できるようになり、自分の思いを自由につづった女性たちが、優れた文学作品を生み出していきました。

またこの頃の宮廷では藤原氏などの貴族が、権力を握るために娘を天皇の后にしようと必死でした。そこで、娘に教養をつけさせるために、才能のある女性を側に仕えさせました。そのため宮廷には優秀な女性が多数集まり、お互いに教養を高め合いながら様々な作品を作り上げていったのです。

千年以上前の作品ながら、恋のときめき、別れのつらさ、ライバルへの嫉妬など心にわき起こる感情は今と変わらないことに気付きます。

〈おもな作品の紹介〉

『和泉式部日記』和泉式部　　『枕草子』清少納言　　『蜻蛉日記』藤原道綱の母

紫式部はどんな人物？

本名、生没年は不明。幼い頃に母を亡くし、漢学者である父から漢学を学びました。子どもの頃から頭が良くて、兄弟よりも横で聞いている紫式部の方が覚えが良かったので、男だったらよかったのにと父を嘆かせたと言われています。20代後半に父ほどの年齢の貴族と結婚。当時としてはかなりの晩婚でした。娘を授かるもその後すぐに夫と死別。この悲しみの日々に源氏物語の執筆に入ったと考えられています。大切な人との別れの苦しみは作品にも影響しています。この物語は書かれた当時から評判が高く、それを聞いた藤原道長が、一条天皇の中宮である娘・彰子の女房として雇い入れます。

豆知識

中宮：天皇の后のことで、皇后・中宮、女御、更衣の順で位が高かった。

女房：貴族に仕えた女性

源氏物語について

あらすじ　主人公は才能にあふれ光り輝くように美しい光源氏。母・桐壷の更衣は天皇の愛を一身に受けますが、周りの女性の妬みをかい、ひどい嫌がらせに苦しみながら亡くなります。その後失意の天皇は、桐壷に生き写しの藤壺の女御を迎えます。3歳で母を失った源氏は、その悲しみから母の面影を求めて藤壺を慕ううち、想いは激しい恋愛感情へ。許されぬ恋に苦しみながら、たくさんの女性を追い求めていきます。天皇の子として栄華をきわめた源氏ですが、晩年には多くの苦悩がおそいかかります。

源氏物語は、恋愛だけでなく、貴族の日常や厳しい権力争い、そして人間の内面までがみごとに描かれた世界最古の長編小説です。優れた教養を持つ紫式部による人間の心理や歴史の描写は、日本だけでなく世界中の人々の心をつかんでいます。

紫式部 と 清少納言 の関係

清少納言も一条天皇の中宮定子の女房として活躍し、随筆『枕草子』を著しました。二人の才媛が宮廷に出入りしていた時期は少しずれるのですが、内向的でひかえめだった紫式部と、陽気で積極的な清少納言はライバルとして語られることが多いようです。紫式部は清少納言のことを、「利口ぶって漢字を書いているがまだまだ未熟な点が多い。とても偉そうにしているが、こういう人はろくでもない終わり方をするだろう」と日記に書いています。一方『枕草子』の中には、紫式部の夫を笑いものにする文章もあります。一（いち）という漢字も書けない振りをしていた紫式部からすると、勝気で自信に満ちた清少納言の振るまいや作品は、気に入らないものだったのでしょう。

原文以外の楽しみ方 ～源氏物語編～

「いづれの御時にか。女御・更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、いと、やむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。」　出典：日本古典文学大系 14(岩波書店)

これは源氏物語の書き出しです。日本語なのにこれでは敷居が高いと思ってしまいますが、原文以外の様々な楽しみ方があります。

- **現代語訳本で楽しむ**・・・与謝野晶子・円地文子・瀬戸内寂聴など多くの作家による訳本があります。
- **漫画で楽しむ**・・・『あさきゆめみし　完全版』大和和紀／著　講談社　2008　M　全 10 巻
  難解とされる源氏物語ですが、分かりやすいセリフと美しい絵で雅な世界が広がります。
- **絵巻で楽しむ**・・・『日本の絵巻　1』小松茂美／編　中央公論社　1989　721
  豪華な貴族の衣装や宮廷内の様子が分かります。登場人物はみんな同じ顔!?
- **朗読で楽しむ**・・・ＣＤ『声にして楽しむ源氏物語』紫式部／著　King Record　2007　CE21067/I/ム
  書籍『声にして楽しむ源氏物語』紫式部／著　講談社　2005　913.36

他にも関連本は多数あります。詳しくはスタッフにお尋ねください。

女性の名前

平安時代の女性の本名はほとんど伝わっていません。父親の役職名や〇〇の母などの表記が多く、紫式部の名は、父の官職名と源氏物語の登場人物・紫の上にちなんだものとも言われています。

平安時代の恋愛事情

この時代の身分の高い女性は、家族以外の男性に顔を見せるのは恥ずべきこととされていました。そのため男性は、ちらりと垣間見たり評判を聞いたりして意中の女性を見つけると、思いを込めた和歌（恋文）を贈りました。受け取った女性は、その和歌・文字・香のセンスなどで男性の人となりを測ります。相手の顔も知らずに恋をするのは当たり前でした。当時は、一夫多妻制と夫が妻の実家に通う通い婚が一般的で、結婚の形も今とは違っていました。

参考文献

『誰も教えてくれなかった「源氏物語」本当の面白さ』　林　真理子／著　小学館　2008　913.36
『王朝文学の楽しみ』　尾崎左永子／著　岩波書店　2011　S910.23
『図解でスッと頭に入る紫式部と源氏物語』　竹内正彦／監修　昭文社　2023　913.36